

スクミリングガイに注意しましょう！

令和6(2024)年7月30日

安足農業振興事務所

スクミリングガイ(俗称:ジャンボタニシ)は、南米原産の淡水巻貝です。雑食性で、特に柔らかい植物を好むため、水田に入ると水稲を食害します。移植後間もない水稲苗では、食害により欠株となることがあります。寒さに弱く、茨城県より北では越冬できないとされていますが、暖冬の影響により越冬できる個体数が増え、令和2(2020)年度の水稲作では、全国的に大きな被害が認められました。

現在、栃木県においてスクミリングガイによる農作物の被害は確認されていませんが、管内では足利市の排水路等で生息が確認されており、今後の気象条件によっては、生息域が拡大するおそれがあります。スクミリングガイの特徴をおさえ、発生が確認された場合には、薬剤散布や耕種的な防除を組み合わせることで防除を行きましょう。

【スクミリングガイの特徴】

○卵

- ・濃いピンク色で200~300個の卵塊を形成する
- ・水面より上の植物体(稲の茎など)や水路の壁に産み付けられる



写真1 卵塊

○貝

- ・成貝の殻の高さは2~7cm程度
- ・長い触角をもつ
- ・他のタニシ類と比較して、螺旋上部の長さが短く、殻高と殻径がほぼ同じ



写真2 成貝

※写真出典:千葉県

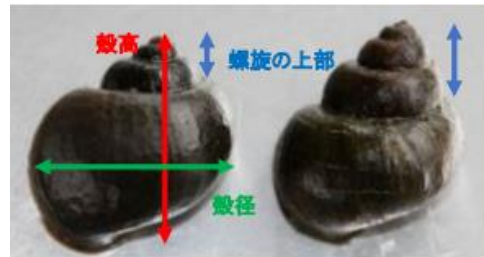


写真3 スクミリングガイ(左) マルタニシ(右)

○越冬

- ・摂食活動は水温15~35°Cで行い、14°C以下で活動を停止し、休眠(越冬)する
- ・水田や用排水路で土中に潜って越冬し、越冬個体の約8割が深さ6cm以内に分布する
- ・寒さに弱く、越冬率は高くないが、暖冬の年は越冬率が高くなる

注意) 卵にはPV2という神経毒が含まれ、貝には人体に有毒な寄生虫がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手で触らないようにしてください。

【スクミリングガイの防除対策】

時期	対策	方法及び効果
冬期	・ 耕うん	ロータリの回転を速くし、走行速度をできる限り遅くする。物理的に貝を破壊するとともに、土から出して寒さにあてて凍死させる。
	・ 水路の泥あげ	越冬場所をなくし、越冬個体数を減らす。
移植前	・ 水路からの侵入防止	取水口や排水口に9 mm程度の網目のネットや金網を設置して水路からの侵入を防ぐ。
	・ 水路での殺卵・補殺	濃いピンク色の卵塊：水中に払い落とす ふ化直前の黒～白っぽい卵塊：押しつぶす 成貝：捕殺し、貝密度を下げる 流域内の発生地域の拡大を防止するとともに、水田内に侵入する個体数を減少させる。
移植時・移植後	・ 中苗移植	食害されにくい4葉期以上の中苗を植え付けることで、被害を軽減する。
	・ 浅水管理	ほ場を均平にし、移植後3週間まで水深を4 cm以下で管理することで摂食活動を抑制する。
	・ 薬剤散布	メタアルデヒド粒剤や燐酸第二鉄粒剤等の登録農薬を散布し、殺貝や食害防止を図る。 ※農薬を使用する際は、ラベルの記載事項を遵守してください。
その他	・ 田畑輪換	1年間畑地化することで貝密度を減らす。
	・ 農業機械の洗浄	未発生ほ場への貝の持ち込みを防止する。

※ 詳しくは、農林水産省 スクミリングガイ防除対策マニュアル（移植水稻）

[sukumi-4.pdf \(maff.go.jp\)](https://www.maff.go.jp/sukumi-4.pdf)を御覧ください。



問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課

0283-23-1431

URL:<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>